

87歳で32本の現存歯

333運動を徹底的に

「良い歯医者さんに

恵まれたことで「ねえ」と、白い歯をのぞかせて笑う。ピンと伸びた姿勢でテキパキと歩く姿は、とても87歳には見えない。新生病院(小布施町)医師の田村久彌氏は、8日に小諸市で行われた第34回歯の健康を守る県民のつどいで、長野県民よい歯のコンクール入賞者「高齢者の部」で表彰された。

80歳で平均8・2本

の歯しか残っていない

という日本の現状で、田村氏は第3大白歯まで完全に揃った32本の自前の歯を持っていきかかっている。かかりつけ歯科医である同院の北村豊歯科口腔外科医長も「めったにお目にかかれない」と驚きを隠さない。

3回の食後3分以内

に3分間歯を磨く「33運動」を徹底、甘いものはなるべく摂取せず、間食はしないなど食生活にも注意し、

も努めている。北村医

長は「口腔環境はいたって普通。う歯があれば早く見つけて早く治そうという姿勢が、このような結果につながったのだと思う」と話す。

田村氏は

1941年に日本医大を卒業し、太平洋戦争のインパール作戦に軍医として参加。砲弾を受けて負傷し、野戦病院に運ばれたことで戦死を免れた。終戦後、日本に戻った田村氏は産婦人科医として働いたが、1964年、「生き延びたことへの償いをしたい」という思いもあり、インドネシアの病院で医療を事とする宣教師になることを決意。通算20年余り、インドネシアを心とする東南アジアでの医療協力活動に尽力してきた。

田村久彌医師(小布施町)



県民よい歯のコンクール入賞

現在、脳梗塞などで半身不随となった患者のリハビリや、特養老人ホームの回診などを行っている。丈夫な自前の「歯」が、生き生きと働く田村氏を支えているのだろう。